

I C Tを活用した授業を展開することができた。実習（裁縫や調理）においては、動画や写真よりも実際に目の前で見せることで児童の理解がより深まったので、児童にとって最適な方法で授業を展開していくとよい。実生活から問題を見出すことが不十分だったため、日常生活に生かしていくことがあまりできなかった。

実態

授業に意欲的で、特に、実技の授業には楽しみながら取り組んでいる。技能として課題はクリアできているが、裁縫道具やガスコンロの扱い方などの安全管理には課題がある。整理整頓については、学校生活でも生かしていこうという態度が見られる。家庭科における児童の経験や知識、技能などの個人差が大きい。

指導上の課題

- ①計画、実践、評価、表現を通して課題を解決する力を育成すること。
- ②日常生活に必要な基礎的な知識の理解と、それらに係る技能の習得ができるようにすること。また、習得した技術を日常生活に生かせるようにすること。
- ③自分や家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

令和7年度の具体的授業改善

高学年
・ I C Tの活用 ICT を効果的に活用し、基礎的な知識・技能を身に付けさせる。(裁縫や調理の手順、方法の確認などで活用。) また、タブレットを活用してワークシートなどを作成し、写真で記録を残したり家庭でも見られるようにしたりする。 ・ 家庭との連携 計画を立て、実行するだけでなく、実行したことを振り返ることでよりよい方法を工夫し、家族に協力し続けようとする態度を養う。宿題等で家庭でも取り組めるようにし、家族の一員としての役割を果たす。 ・ 問題解決の実践・活用 自分の生活を見直すことを通して、問題を見出し、課題を設定する。実践に向けて具体的に計画を立て、適切な解決方法を選べるようにし、実践させていく。また、単元を日常生活や学校生活などに関連させて取り扱い、学習したことを実際に活用できるようにする。 ・ S D G s SDG s への参画の一環として、学習指導要領の内容C「消費生活・環境」(2)は総合「今、自分たちができること」と関連付けて学習を進める。その中で、環境に負荷の少ない生活の仕方を考えさせる。また、「快適な住まい方」の授業において、身近な環境にできるだけダメージを与えないようにするための方法に気付かせ、自分たちに今できることを、学校生活でも家庭生活でも実践させていく。